

後藤重巳先生のご逝去を悼む

昨年四月、別府史談会会長の後藤重巳先生がお亡くなりになりました。敬愛する後藤先生のご逝去に対し、衷心より哀悼の意を捧げます。

先生は國學院大学文学部史学科をご卒業後、昭和三十六年から三十八年間の長きにわたり別府大学・大学院で教鞭を執られました。この間、学内では文学部長(三期六年間)をはじめとする要職を歴任し、平成二十一年には別府大学名誉教授の称号を授与されました。また、学外においても地方史・文化財に関する数々の役職をお務めになりました。このようなご活躍が公に認められ、平成二十四年に瑞宝中綬章を授与されました。

先生は学問研究においては実証主義を貫く厳格な研究者・教育者でいらつしやいました。一方また、心を尽くして教え子や後進の面倒を見られたので、先生をお慕いする者は多く、同窓会では常に多くの教え子が先生を囲んでいました。特に先生の研究関心と係わる沖縄県出身者への思い入れは強く、自ら沖縄県人会を組織し会長として手厚くお世話をされました。

先生は平成十六年、別府史談会第四代会長に就任され、ご逝去に至るまで本会を力強く牽引してこられました。

昨年、体調を崩され入院されましたが、病床におかれましても本会の行く末を常に案じておられたように承っています。

先生は生涯を通じ日本近世の地方史研究に心血を注がれました。晩年はその研究者としての情熱をひとえに本会に傾注し、本会の発展に多大な足跡を残されました。大分県近世史研究における第一人者としてのご学識は、本会の学術研究の大いなる推進力であったと承っています。先生のご逝去により、本会はまことに大きな支えを失いました。

私は昭和六十年に別府大学に着任して以来、先生のご高恩を忝くして参りました。先生のごご恩には何を以てしても報いることはできません。ただ、お引き受けした本会会長の責務を全うすることが先生のご意志に叶うものと信じ、ひたすら会務に励むことを御霊前にお誓いします。

先生の人なつつこいお人柄に多くの人々が思慕の念をいだいてきましたが、もう先生の暖かさに触れることができなくなりました。今はただ御霊の安らかならんことを願うばかりです。合掌。

平成二十七年一月

友永 植